

# 森林情報の「見える化」を通じた伴走支援

静岡県賀茂農林事務所  
森林整備課 主査 伊藤允彦

## はじめに

私が担当する静岡県賀茂地域は、伊豆半島南部に位置し、急峻で複雑な地形が広がっています。人工林は存在するものの、スギ・ヒノキがまとまって分布する地域は

限られ、主伐や再造林を計画的に進めるには多くの制約がありました。その結果、森林施業は小規模・断続的になり、生産性や収益性の確保が大きな課題となっていました。

森林総合監理士として地域の課題を解決するためには、市町、林業経営体、森林所有者といった多様な関係者の間に立ち、それぞれの立場や言葉の違いをつなぎながら、地域が自ら考え、判断し、行動できるように伴走する必要があります。

その中で重要だと感じてきたのが、高精度な森林情報を地域で共有した上で、皆で目指すべき森林の姿を考える風土をつくることでした。

## データを使う情報にする

賀茂地域では、航空レーザ測量による三次元点群データが整備されており、材積や微細な地形を把握できる高精度な森林情報が揃っていました。しかし、データが存在するだけでは、現場の判断や行動にはつながりません。

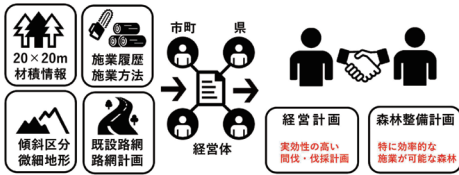
そこで、林業経営体が主体となり、国、県、市町がオブザーバーとして参加している地域の協議会を通じて、林業経営体にデータを共有し、GISソフトの導入や操作支援を行いました。

「ノキがある」「材積が多い」だけでなく、傾斜、路網からの距離、標高、作業システムなど、複数条件を掛け合わせて、効率的で収益性の高い生産適地を抽出し、地図として「見える化」しました。

## 森林総合監理士の役割・視点

データを活用した「計画立案」の風土をつくる。

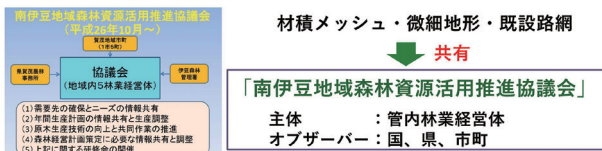
みんなで「あるべき姿」を共有する。



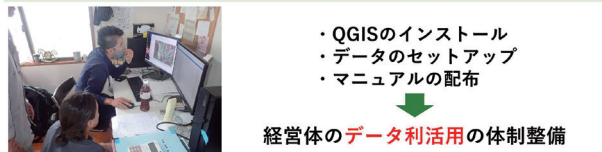
高精度な情報を「見える化」し 同じものを見て、「あるべき姿」を考える。

## データ共有と利用支援

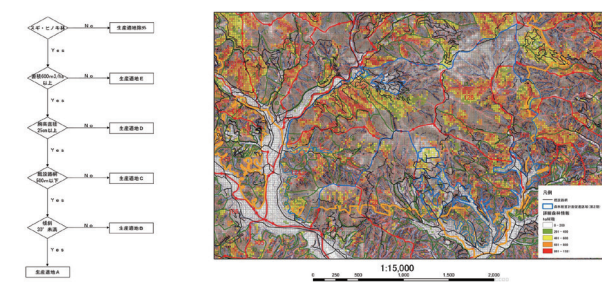
### 1 地域の協議会を通じ、データを提供



### 2 各林業経営体へ訪問し、データを整備



## 生産団地設定と森林経営計画支援



- ・各市町・各経営体へのヒアリングを基に、主伐適地を設置するフロー図を作成
- ・フロー図を基に主伐適地を設定し、森林経営計画の作成を支援
- ・各市町・経営体において合意形成を図るため、地域の協議会において森林経営計画の拡大方針をGIS上で共有

